

街を行く

第144回 調神社 Tsuki Shrine

ぴよんぴよん元気に行きましよう！

新年号に相応しく“めでたい街”から2023年の幕を開けたいと思います。

めでたさを求め、当初は2023年の干支「兔」にちなんだ街はないか探したのですが見つからず、ならば名所旧跡でもよいからと調べた末にこの神社へとたどり着きました。

その名は「調(つき)神社」。

ここに決めたのはシンブルに、兔とかかわっていたからです。神社の名「調」の読みである「つき」(この字がその様に読めるとは知りませんでした)を「月」とかけ、月の遣いであるウサギをシンブルにしているというわけです。

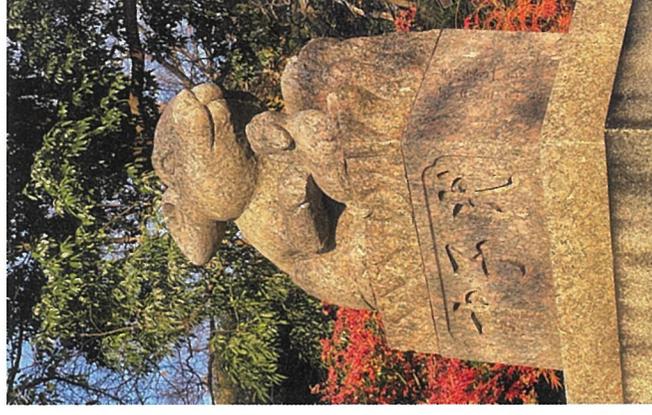
境内は至るところ兔の像だらけ。まず入り口に鎮座しているのは狛犬ならぬ狛“兔”です。それで驚いてはいられません。手水舎(水で手を清める場所)では水が兔の像の口から、池にある噴水の噴出口でも兔の口からです。本堂の彫刻は眠り猫ならぬ飛び跳ねる兔でした。ここまで兔尽くしとは脱帽するほど。ここまですべて可愛いやいやや否やなく気持ちが悪くはぐれてきます。

度を越すほどに存在する兔たちの像をみて、じつは兔をシンボルにしたのは、人集めのために神主が割と最近に思いついたアイデアなのでは?と訝かっでもおりましたが、古い狛“兔”を発見し、昔から兔信仰があったかとも知れない、と考えを改めました。

調神社の創建は今から2,000年前。伊勢神宮に納める貢物の初穂を運び出す倉が建てられていたそうです。大切な貢物がぶつからないよう鳥居が無いという、非常に珍しいタイプの神社と



狛“兔”と池で水を噴き出す兔。堂司さんに話を聞いたのですが、今年は兎年だけあって初詣の賑わいは尋常ではなく地方からも参拝時間の問い合わせが絶えないようです。



いえます。

浦和駅から徒歩で10分少々。旧街道沿いで周りには古い商家が今も営んでおり、風格のある店の様に往時の賑わいが思われます。埼玉というと新都心や大宮が連想され、浦和はサッカーの印象が強いですが県庁所在地です。大宮市・与野市(のちに岩槻市)と合併され、さいたま市として県内最大の街であることは変わらなずです。JRの上野東京ラインで訪ねたのですが「こんなに近かったのか」とアクセス利便性のよさを認識しました。

2022年は、物価の高騰をはじめとした経済問題から民族主義的な各国の動きなど心配の種は尽きませんでした。2023年は身の周りからしつかりとできることをこなしていきたいと思っています。

兔の様にぴよんぴよんと跳ねて楽しく元氣に行きましょう。お土産に兔の置物を買って帰りました。ご利益がありそうですよ。いや有ることを信じます。2023年もよろしくお願ひ致します。

兔にあやかり読者の皆さんと共に最高の年にしたいですね。

南一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エンジェルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。